

～3年生は一般選抜試験に向けて追いこみです！！～

3年生で共通テストを受験した生徒はお疲れさまでした。国公立大学を志望する生徒はこれから出願し、合格に向けてラストスパートです。2月に入ると私立大学の一般選抜も本格化し、2月25日を中心に国立大学前期日程の個別試験が実施されます。月並みですが受験生にとって大事なことは志望校合格です。しかし、同等かそれ以上に大事なことは全ての試験が終わった時に「やりきった！」と自分自身が実感できることだと思っています。その実感が本当に自分を信じることでできるようになるという、文字通り自信となり今後の自分を支える軸となります。だから、私は受験の目標は志望校合格ですが、目的は自分に偽ることなく「やりきること」だと思っています。「やりきること」ができ、自分に自信が持てたら、次の環境でも日々、自分の決めたミッションに向かって学び、努力し続けることができるようになります。是非、君たちの充実した人生に繋がるように、できることは何でもやろうと思っていますので、遠慮なく声をかけてください。

さて、共通テストの結果を受けた国公立大学、私立大学の志望動向がベネッセコーポレーションや河合塾他の各業者から発表されました。それらについてのトピックを紹介しますが、3年生だけでなく来年以降に受験をする1・2年生にも参考になればと思います。

① 共通テスト概況

志願者数は491,914人と前年から2万人減少しました。志願者数が50万人を割り込んだのは32年ぶりです。また、既卒生志願者は年々減少しており、共通テストの志願者全体の85%を現役生が占めており、現役生中心の入試が継続しています。自己採点結果による平均点についてですが、5教科7科目(900点満点)の受験者平均点は、文系がベネッセのデータで547.5点、理系が568.9点と文理ともに上昇しました。出題傾向については、大きな変化はなく、「思考力・判断力・表現力」を問おうとする各教科・科目の出題方針に則った出題で、日常の事象を題材とした問題や、授業で学習する場面を想定した問題、複数の資料やデータをもとに考察する問題など、これまでに出版された共通テスト特有の出題傾向は継続しています。日常の自学自習においては知識を習得するだけに留まらず、得た知識を活用する学力や資料読解力を身につけること、日常生活や社会の出来事に目を向けることが重要です。学習方法としては授業や自学自習に集中することが最も重要であることは言うまでもありませんが、加えて、新聞記事を読む、ニュースを視聴する、色々なジャンルの読書に励むことなどが必要です。学部系統別では多くの系統が前年並みとなっており、前年からの変化は小さいですが、「法・法律」「経済」「外国語」「地域・国際」「理」「農」で出願予定者が増加しています。

② 難関国立大について(東大、京大、北大、東北、東工大、一橋、名大、阪大、神大、九大の10大学)

※志望指数は全て昨年度同時期に対する指数で難関大学はベネッセ駿台のデータネット、それ以外は河合塾のデータを掲載しています。

・**東大**の文系は文Ⅰ指数88、文Ⅱ98、文Ⅲ91と秋の模試段階と同様、全て減少しています。理系は理Ⅰが指数106、理Ⅲ104と激戦となっていますが、理Ⅱは過去2年間の入試で志願者数増加の反動で、指数78の大幅減少となっています。ただし、理Ⅱは理Ⅰからの志望変更が例年みられるので注意が必要です。データネットB判定値では理科類は5点から15点でアップしていますが、言うまでもなく、個別試験重視の大学なので、今後の個別試験対策が重要です。

・**京大**の志望者は前年並みです。文系では文学部が4年連続志願者数減少中ですが、今年も指数96の減少となっています。社会科学系統では法学部は指数104の増加、経済学部(文系)は指数96の減少となっています。理学部は減少していますが工学部は指数104の増加となっています。薬学部は系統への人気の低下もあるのか、指数95の減少です。得点開示から理学部は数学と理科、薬学部は国語と英語が得意な生徒が合格している傾向が見られます。

(次のページへつづく)

- ・**九大**の前期日程の文系では、文学部・経済経営学部で志望者がやや増加したのに対し法学部、教育学部で減少しました。法学部は難易に変化は無いようですが、教育学部は指数 72 の大幅な減少となっており、上位層も薄いので易化予想となっています。共創学部は指数 92 で減少しています。理系では、理学部は前年並ですが、学科別では生物、化学、地球惑星科学科が増加、数学、物理で減少しています。工学部は、学部全体では指数 93 の減少ですが、学科群別では III 群、VI 群で増加した一方、人気の高い I 群は指数 81 とかなり減少しています。ただし、ボーダー得点率は一番高い I 群で 77%、一番低い IV 群が 73% と開きがあるため、工学部は例年、出願の動きに注意を払う必要があります。芸術工学部は全体ではやや減少していますが、例年、人気の高い音響設計コースも指数 79 と大きく減少しています。医学部医学科は指数 82 の減少ですがボーダー得点率は 87% と高得点が必要です。医学部保健学科の専攻別では検査技術科学専攻が指数 135 と増加していますが、放射線技術科学専攻は指数 96、看護学専攻は指数 96 でいずれも減少傾向です。薬学部は指数 85 の減少となっていますが、学科別では、臨床薬学科が指数 84、創薬科学科が指数 87 でこちらも減少しています。農学部、歯学部は前年並の志願状況です。
- ・**阪大**は全体では指数 94 と模試段階と同じで減少傾向を示していますが、経済学部、人間科学部、理学部は前年並みです。文学部は昨年度入試の反動で指数 96 の減少となっています。外国語学部は指数 99 の前年並です。この学部は 13 専攻で募集人員の変更があり、募集人員が少ない専攻も多く、例年、共通テスト後の志望変更が大きいことを理解してください。法学部は志願者数 3 年連続増加の反動で指数 91 と減少しています。工学部は指数 90 の減少ですが、学科別では応用自然科学科以外の 5 学科中 4 学科が減少。基礎工学部も指数 89 の減少で、学科別では 4 学科全てが減少しています。
- ・**神大**は人気の高い経済学部は指数 99 の前年並です。選抜方式別の総合選抜は指数 101、数学選抜は指数 99 といずれも前年並。一方、英数選抜は指数 78 の減少となっていますが、個別試験で英語、数学、国語を受験すれば、3 区分すべての選抜対象となることから、基本的には 3 教科受験をすることが得策です。経営学部は指数 103 のやや増加です。共通テストの高得点者および個別試験の高得点者からそれぞれ募集人員の約 30% を優先的に選抜するのでデータネットで B 判定値得点率に届かなかった受験生も個別試験で逆転可能です。国際人間科学部のグローバル文化学科は例年、人気の高い学科ですが、志望者は指数 89 と減少しています。
- ・**東工大**の全体は指数 98 の前年並みですが、学院別志望指数は理学院 101、工学院は 100、物質理工学院は 111、情報理工学院は 86、生命理工学院は 112、環境・社会理工学院は 85 です。2023 年度入試まで前期日程の出願において第 3 志望の学院まで記入ができましたが、今年度からの学院までに変更されました。全学院の志願者数が募集人員の 4 倍を超えた場合に 2 段階選抜の実施が予告されており、第 1 段階選抜通過ラインについてベネッセは 500 点と予想しています。
- ・**一橋大**は新設 2 年目のソーシャル・データサイエンス学科が昨年の模試の実施段階では受験生への周知が遅れていましたが、周知も進み志望者が増えています。ただし、難易度に変化はないようです。
- ・**北大**の大学全体では指数 92 の減少です。注目度が高い総合入試理系は、指数 91 の減少傾向で重点選抜群別では、数学、物理重点選抜群が数学の指数 64、物理の指数 80 と減少しています。
- ・**東北大**の文系では模試では人気が無かった文学部が指数 116 と増加しています。評価が高い理系では理学部、農学部、医学部で指数が高くなっていますが、特に人気の高い工学部は指数 101 の前年並となっています。学科別では化学・バイオ工学科が指数 114。募集人員が 7% 増加する建築・社会環境工学科は指数 107、材料科学総合学科は指数 105。募集人員が 5% 増加する機械知能・航空工学科は指数 102、募集人員が 8% 増加する電気情報理工学科は指数 93 となっています。
- ・**名大**の大学全体では、指数 98 の前年並です。文系では人気系統の経済学部が指数 105 の増加となっています。情報学部は昨年度入試の反動で指数 88 の減少となっています。人気の工学部の学科別では化学生命工学科が指数 118、理工学科は指数 111 と大きく増加しています。

2 中国地区国立大学の前期の動向について

- ・**岡山大**は全体的に上位者指数が昨年度より上昇しています。最近は大学の立地している場所が出願の選択に繋がることがありますが、岡山大は新幹線の駅から近いという点からも人気が安定しています。特
(次のページへつづく)

に法学部、経済学部志望者は模試ではボーダーライン上が厚くなっており、チャレンジ層にとっては厳しい状況です。この系統は共通テスト後に神戸大や大阪公立大の志望者流入に注意が必要となります。岡山大志願者の中には後期日程廃止による安全志向に伴い、前期から安全志向で香川大、鳥取大に志望者が流れていく傾向が最近は多く見られます。また、後期日程との併願動向にも注意が必要です。

・**広島大**の法学部は出願予定者が指数125と大幅に増加していますが難易度に影響はなさそうです。教育学部の初等教育は昨年の反動で出願予定者が指数88と減少しています。工学部では定員45名の工学系一括募集が前年入試の反動から志望者が指数62と大幅減少となっています。また、人気が高い電気電子・システム情報系の第2類も指数65と大きく減少していますが、こちらは成績上位層に変化はありません。生物生産学部は模試では人気が高かったですが、指数92と減少となっています。しかし、成績上位層がやや厚く、難易度を維持しているので楽観はできません。医学部医学科は予想ボーダー得点率が上昇し指数も116と大幅に増加しており個別試験勝負となりそうです。薬学部も指数118と人気が高く医療系全体でも指数109と増えているので広島大の医療系は厳しい入試が予想されます。情報科学部もA型は指数123で成績上位層増加が顕著で難化しそうです。

・**鳥取大**は多くの学部で志願者が増加しています。特に工学部は指数128の大幅増加となっています。例年、岡山大からの流入も見られますが、同時に島根大学と重なる学部系統では隔年現象も見られるので、島根大の志望動向も視野に入れておく必要があります。

・**島根大**も過去3年間は多くの学部学科の競争倍率が1倍台と低かったですが、今年は鳥取大と同様、多くの学部で志願者が増加しています。特に法文学部言語学科は得点率60%の層が厚くなっていて、出願には注意が必要です。また、生物資源学部も昨年度の反動で志望者が1.5倍近く増加しています。個別試験対策をしっかりとする必要があります。

・**山口大**は今年志願者が増えている鳥取大、島根大とは逆に多くの学部で志望者が減少しています。特に人文学部、教育学部、工学部での減少が目立っています。人文学部は模試動向と同じく指数78と低くなっており易化が予想されています。経済学部は前後期ともに昨年度入試の反動で志望指数の減少が目立っていますが、共通テスト後に岡山大学、広島大学志望者の流入があり、今年度は岡山大、広島大でE判定の層が厚いのに加え、例年、模試の偏差値40台後半からの合格者も多く、数学による個別試験での逆転もあるので個別対策が合格への大きな鍵になります。理学部では数理科学の出願予定者が指数150と増加が顕著です。工学部は機械工と応用化学で指数がそれぞれ65、76と減少していますが、工学部は二次試験での逆転合格も多いので共通テストで判定が悪くても諦めずに頑張ってください。共同獣医学部は出願予定者が指数108と増えており、難易度も変化なしと予想されています。医学部医学科の志望者指数は116と増加しており、ボーダーラインも得点率80%以上となり医学科志望者には厳しい状況です。中四国地区の医学部について今年は出願予定者が大幅に増加しており、ボーダーラインも上昇していますので、医学部志望が強く、山口大からの出願変更を考える際には九州や東日本を視野に入れる必要があります。医学部看護学科は昨年度入試の反動で指数89と志願者は減少しボーダーラインも少し下がり62%となっています。農学部は大きな動きは見られず、昨年通りと考えて問題はなさそうです。

3 九州地区国立大学+北九州市立大学前期の動向について(九大以外)

・**九州工大**は工学部の指数が113と増えており、上位層の人数も多いです。さらに、九州大学の志望者が一定数変更してくるので数学、理科の高いレベルの受験学力を身につけて臨む必要があります。

・**福岡教育大**は改組2年目で、昨年度は志望者数が増えましたが、今年度は出願予定者が多くの学科で減少しています。特に初等教育学科の小学校教育と幼児教育は指数が大きく減少していますが、難易度に変化はないようです。初等理数教育学科が指数203と倍増しており、他の学科と同じ難易度に戻ることが予想されています。

・**北九州市立大**はコロナ禍の影響で指数が減少していましたが、5類移行の反動からか国際系の外国語学部中国学科、国際関係学科などは出願予定者が1.5倍となっており、難化が予想されています。法学部法学科は指数125と高いですが同じく法学部の政策科学学科は指数83と低く易化が予想されています。国際環境工学部の環境化学工が指数125と高くなっていますが、上位層は厚くありません。

(次のページへつづく)

- ・**佐賀大**は全体的に指数の変化が小さく、昨年と同じ傾向と判断して問題はなさそうです。経済学部では経済学科と経営学科は指数が増加していますが、経済法学科は減少しています。
- ・**長崎大**の経済学部は人気系統にも関わらず指数93と志願者が減少しています。個別入試の科目が数学、英語の必須という負担の大きさでこのようになっていますが、粘り強く取り組むことで合格の可能性が高まり、例年 C、D 判定からの逆転合格が多く見られます。
- ・**熊本大**の文学部文学科は指数114で昨年に引き続いて指数が上昇しています。法学部で前年の反動で指数120と増加しており、回復の兆しが見られます。教育学部は指数103と前年並みとなっています。工学部では情報電気工学科以外は志願者が増えており、新設の半導体デバイス工学は全国レベルで認知が進んでおり受験者が集まりそうです。
- ・**大分大**の初等中等教育は昨年、低倍率で易化しましたが、今年は難化が予想されています。理工学部は模試では人気がありましたが、指数は98とやや減少しています。医学部医学科一般枠は指数60と低く、大分県出身者の出願予定者が昨年の53名から 25 名と半減しており、最近の医学科の極端な志望動向を反映しています。また、新設 2 年目の医学部生命健康科学と臨床医工学は昨年度と今年の模試動向は堅調でしたが、今年度は指数が下がり易化予想となっています。
- ・**宮崎大**では工学部が前期日程240人、後期日程90人を一括で募集していますが、前期は昨年度も倍率が1.7倍と低く、今年も指数は89、ボーダー得点率も49%と低いです。もちろん、研究内容は他の国立大学に引けを取らず、充実しているため、例年、関東地区からも多く入学しています。
- ・**鹿児島大**は利便性が高いことから安定した人気を誇っているのが特徴ですが、今年度は法文学部多元地域文化学科が指数115と志望者が集まっています。特にボーダー付近が激戦となりそうです。教育学部は募集人員が少なく、難易の振れ幅が大きくなりがちなので昨年度の反動に注意が必要です。改組のあった農学部農学科はボーダー得点率が7ポイントアップと難化が予想されています。

4 私立大学共通テスト利用の主な動向

- ・共通テスト利用私立大は 2024 年度入試では 530 大学と前年度から減少しました。共通テスト方式を廃止する大学があることに加えて、募集停止や公立化の大学が見られることが要因です。全体の志望者指数も 95 と減少しています。学部系統別では、生活科学系統、保健衛生学系統、工学系統などで志望者数の減少が目立っています。
- ・関東地区では上智大が文学部、外国語学部学部においてボーダー付近の出願予定者数が増加していることから難化傾向が予想されています。東京理科大学の事後出願方式では、昨年度は易化しましたが、今年は国語の平均点アップの影響もあり、出願予定者は指数112と大幅に増加しています。MARCH の中では青山学院大学が全体的に志望者を集めており、事後出願募集区分も指数111、成績上位層も厚く、難化が予想されています。日東駒専では日本大がすべての学部で昨年を下回っていますが、他の3大学では志望者を増やしている学部が多いです。
- ・関西地区の関関同立では同志社大学の文学部が指数115、政策学部が指数169と高くなっており、特に 3 科目方式の難化が目立っています。立命館は法学部や国際関係学部で指数が下がり、政策学部や産業社会学部で指数が上がっています。また、3教科方式より5教科、7教科、併用型の指数が低く易化傾向が見られ、国立大学との併願志望者が有利だと言えます。関西大学では環境都市が指数216、外国語学部が指数144と高いのに対し、総合情報学部は指数69、社会安全学部は指数70と低く、明暗が分かれています。関西学院大学は法学部、経済学部など文系で指数が100を上回り人気の回復が顕著に見られます。京都産業大学は文系が全学部、理系が理学部以外の全学部で出願予定者が減少しており、全体的に易化しそうです。近畿大学はひと頃の人气が落ち着いてきたのか、ほとんどの学部で指数が100を下回っています。龍谷大学も法学部、政策で軒並み志願者が減少しています。逆に甲南大学はマネジメント学部と知能情報学部以外は志願者が増えており、人气が回復しています。
- ・九州地区は近年の共通テストの難化により指数が100を下回っている大学がほとんどですが、その中で福岡大は経済・経営・商学系統以外は全ての学部で指数が100を超えており増加傾向となっています。西南学院大は全体の指数は101ですが法学部が指数108と志願者が増加しています。

志望動向については以上ですが、質問とかあれば遠慮なく来てください。

(文責・松村)